



～春の美術展～

～恒友・喜一・明正・武久・恭三～



熊谷の洋画の系譜展



会期：令和7年3月22日(土)～5月18日(日)

[休館日：毎週月曜日(祝日を除く)、4/4、4/30、5/2、5/7]

会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 美術展示室

時間：午前9時～午後5時

入場無料

主催：熊谷市立熊谷図書館

住所：熊谷市桜木町2-33-2

電話：048-525-4551

～ごあいさつ～

明治維新によって海外から様々な技術や文化が日本にもたらされましたが、その一つに「洋画」があります。洋画とは油彩画や水彩画、パステル画など、西洋由来の画材道具を用いて描いた絵画です。そしてそれまで日本で描かれていた絵画は、総称して「日本画」という言葉を用いて区別するようになりました。

さて、近代から現代における本市ゆかりの洋画家の系譜を見ていくと、日本や埼玉県の画壇をリードした画家を多数輩出していることがわかります。

洋画そして日本画双方の絵画技法で日本の風景の表現を模索し、中央画壇を牽引しつづけた森田恒友、黒田清輝から外光派の絵画技法を学び、埼玉県で初の洋画団体「坂東洋画会」を指導した大久保喜一、独特の色彩感覚とタッチでデフォルメされた作品を生みだし、文展や光風会展等で入選を重ねた里見明正、梅原龍三郎・安井曾太郎・林武に学んでフランス留学を果たし、帰国後は銀座和光での個展や立軌会同人となるなど活躍した志邨武久、里見・志邨の薫陶を受け、埼玉県内の県立高校美術教師として多くの後進を育てつつ、春陽会展等で活躍した小島恭三。この5人は、熊谷ゆかりの画家たちの中でも特筆すべき多くの業績をのこした画家たちです。

今回展は、この5人の画家にスポットをあてて、当館所蔵の洋画作品を展覧いたします。当館では、郷土熊谷に関連する芸術作品の収集・保存・展示を行っております。こうした企画展で市民の皆さんに作品をご覧いただくことにより、熊谷の育んだ芸術文化の高さ、素晴らしさが改めてわかると思います。そしてこの5人の作品を通じて“芸術のまち・くまがや”を感じていただければ幸いです。

令和7年3月22日

「熊谷の洋画の系譜展」記念展示解説会

テーマ 「熊谷を代表する洋画家たち」

講師 浜島義雄氏（熊谷市美術家協会顧問）

日時 令和7年4月25日（金）13：30～15：30

会場 熊谷図書館 3階 美術展示室

対象 一般成人

定員 60名（申込先着順）

参加費 無料

※申込は事前に美術、郷土係までお願いします。